

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 安藤 友久

本研究は近年国内でも普及が進んでいる遠隔医療の有用性を検証するためにランダム化比較試験を実施したものであり、下記のような特徴を持つ。

1. 国立成育医療研究センター政策科学研究部（東京大学大学院医学系研究科連携講座）、横浜市栄区、株式会社 Kids Public の産学官の三者で連携して実施されたランダム化比較試験であり、エビデンスレベルの高い研究デザインである。
2. 横浜市栄区という一地域で出生した児とその母全員が研究の対象とされ、母子を取り巻く環境が類似した国内の他の地域においても概ね一般化可能な研究である。
3. 検証された遠隔医療は、小児科医が医師-患者間で対応する遠隔健康医療相談であり、これまで国内での報告はなく新規性がある。
4. 主要評価項目の一つとされたアトピー性皮膚炎は乳児の重要な健康課題であり、遠隔医療を活用したその発症予防への着目はこれまで世界的にも報告がなく新規性がある。
5. 小児科医による遠隔健康医療相談とメールマガジンの複合サービスにより、生後4か月時の乳児のアトピー性皮膚炎の有症率が低下すること示した初の報告である。

以上、本論文は産学官で実施されたランダム化比較試験で、小児科医による遠隔健康医療相談とメールマガジンの複合サービスが、生後4か月時の乳児のアトピー性皮膚炎の有症率を低下させることを初めて示したものである。本研究は国内の遠隔医療の有用性を示す数少ない報告であり、今後の国内における遠隔医療の進展にとって重要な貢献をなすと考えられる。

よって本論文は博士（医学）の学位請求論文として合格と認められる。